

エコネットコンソーシアムは、「エネルギー・マネジメント」に加え「ヘルスケア」を第 2 の基軸サービスとして、システムの信頼性の考え方の整理、サーバー間連携の技術検討、サービス事業者への普及促進などを通じて IoT 社会／Society 5.0 実現に貢献するための活動である「ECHONET 2.0」を発表しました。

昨年 20 周年を迎えたエコネットコンソーシアムは、エネルギー・マネジメントをメインターゲットとして ECHONET Lite 規格の策定、認証制度の構築および普及促進を推進してきました。また、スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会やエネルギー・リソース・アグリゲーション・ビジネス検討会など産官学連携活動及び国内外の工業会・標準化団体と積極的なリエゾン・アライアンス展開を推進しました。その結果、エネルギー重点 8 機器を中心に各機器への ECHONET Lite 搭載が定着化するとともに、ZEH 補助金などの補助金要件としてみとめられるようになりました。

今までの実績を活用し、「世界一の IoT 住宅・IoT オフィスの普及」、「経済的発展と社会的課題の解決に貢献する日本を代表する国際標準 I/F の推進・展開」を目標として、IoT 社会／Society 5.0\*1 にさらに貢献する活動「ECHONET 2.0」を推進します。具体的には、インターネット上のサービス含めたシステムに検討範囲を拡張し、「ECHONET Lite 機器を用いたシステムの信頼性の考え方の整理」、「多種多様なサービスを連携するためのサーバー間連携の技術検討」、および「サービス事業者への普及促進」を図り、さらに「新規参入者向け開発環境の整備」を進めていきます。

- \* 1 : Society 5.0 : 「日本が目指すべき未来社会の姿として第 5 期科学技術基本計画において提唱された、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」  
(出典：政府広報サイト [https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/index.html](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html))

## ECHONET 2.0 の基本方針と目標

### ① 対象機器のさらなる拡張とインターネットを含めたシステム信頼性の考え方の整理

エアコンや燃料電池や EV 充電器、スマート電力量メータなど家電や業務用機器の IoT 化を実現する日本発の国際標準規格 ECHONET Lite 規格[ISO/IEC 14543-4-3]に対応した機器は、これまでに約 5370 台以上が市場に投入されてきました。ECHONET2.0 では IoT 社会／Society 5.0 に貢献するために、2020 年までに 1 億台 の ECHONET Lite 搭載機器の普及、および新たなサービス実現を可能とするために、2025 年までに制御コマンドを定義する機器 200 機種 を目指します。

ECHONET Lite 機器が IoT 社会に資するものであることを明確化するために、クラウド上の様々なサービスを含めたシステム全体を検討領域とし、「コントローラとサーバーで重要な情報を守り、信頼できるサービスと接続する」という考え方を整理します。

### ② 様々なサービスの実現を可能とするサーバー間連携の技術検討

ECHONET Lite 規格対応製品は、ネットワーク接続をして様々なサービスを実現することに価値があります。色々なサービス事業者様が ECHONET Lite 対応機器を対象とした各種サービスや応用アプリ開発を可能とするために、サーバー上の WebAPI の仕様検討をいたします。なお、現在、制御・状態参

照などの基本的な機能を実現するための仕様書の第 1 版は一般公開済みであり、仕様書（第 1 版）に準拠した実験サーバーを会員向けに今冬公開予定です。

### ③ サービス事業者への普及促進

ECHONET Lite 機器の普及、および ECHONET Lite 機器を用いたサービス普及に向けて、ヘルスケアサービスなどの新たなサービスに関する Market Requirements Document を作成と、サービス開発の容易さにつながる WebAPI の検討を進めます。そして、すべての方々が Society5.0 のメリットを享受出来るように、2030 年までにすべての世帯に信頼できるコントローラが普及することを目指します。

### ④ 国内外の標準化団体などとの連携強化と新規参入者向け環境整備

今までスマートハウス・ビル標準・事業促進検討会やエネルギー・リソース・アグリゲーション・ビジネス検討会などを通じ日本電機工業会や住宅生産者団体連合会、慶應義塾大学、神奈川工科大学など産官学の団体と連携し ECHONET Lite、ECHONET Lite AIF 対応製品の普及に努めてきました。

ヘルスケアサービスやその他のサービスの創造、拡大を図るにあたり、エネルギーマネジメントの市場創造したやり方を踏襲し、産官学 + 標準化団体との連携や国際標準化を推進します。試験センターの拡充や開発環境のオープン化について検討し、新規参入者向け環境整備を図ります。

以上